



講座のアピールポイント

埼玉医療センター麻酔科講座では、麻酔とペインクリニックの診療、研究を行っています。麻酔学の専門性の細分化に伴い、ペインクリニック部門を奥田教授、気道管理部門を浅井教授、齋藤講師、心臓麻酔部門を新井教授、鈴木講師、小児部門を鈴木講師、産科部門を橋本講師、区域麻酔を齊間講師が中心となり臨床、研究、教育を行っています。研究面においても、社会人大学院制度を活用した臨床研究に積極的に取り組んでいます。奥田教授着任後、11名が学位を取得し、現在も新たに数名が学位取得に向けて日々研究に励んでいます。国内外の学会に毎年精力的に参加・発表し、半年から1年間の国内外留学も医局員の希望で行われています。女性入局者の増加もあり、現在では総勢15名以上の女性医局員が在籍しています。そのほとんどが出産を経て、育児で忙しくても何らかの形で職場復帰をして学会発表などをおこなっているのも特徴の一つです。奥田教授は越谷着任以来、明るくて楽しい医局を作りたいと、常日頃から言われています。医局員一同、より良い医療を行うために臨床、研究に日々従事しております。



講座の研究内容

麻酔に気道管理の知識、技術は欠かせません。気道管理とは、麻酔薬で眠った後にマスクや挿管チューブ（口から肺に入れる管）を用いて体内に酸素を運ぶ行為を言います。当講座では、その気道管理に関する研究を浅井隆教授中心に行っております。近年大学院生を中心に行われている研究は、麻酔管理での新型コロナウイルスの感染拡大の予防に気道管理で産生されるエアロゾルをいかに抑制、予防するかの研究を行なっています。気道管理で生じるエアロゾルは医療従事者のみならず、他の患者様にもウイルスを感染させる可能性がありますので、その対策は急務です。写真は、エアロゾル産生をマネキンによりシミュレーションした研究現場の一部です。また海外交流も行っており、シンガポール大学とも共同研究を行っています。当講座は、世界の麻酔管理に影響を与えることができる研究を行っています。

